



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 77

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 77. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1959, 77: 61-67

ISSUE DATE:

1959-02-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186788>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 77

1959. 1月 (2月5日)

録 事

既報の新設ポンプ室が耳頭にいよいよ水族館南側の道路際に新装の姿を現わした。今月より海水は新設井戸を通じて全館に配給されることとなったが、従前のものに比し機械の調子は上乘の模様である。

12月以來、泉学荘周辺の整備にとりかかっていたところ、どっしりとした正門と伊吹拍摸を模した生垣が県道側に、アーチ型の白く塗った通用門が西南隅構内側にできあがり、宿舍の建てられた頃と較べると間違えるばかりに落ちついた一郭となった。

水族館の改築については、よりより希望条件を協議をして検討を重ねていたが、いよいよ最後の腹案をまとめて、このほど設計依頼者の山本枝官の下に提出する運びとなった。

正月以來近年稀な寒波が襲来し、そのためか、辻用務員の母堂しげさんが97才の高令を以て去る1月20日死去された。又同23日には渡瀬事務員の祖父田井万吉氏が78才の高令を以て死去された。謹んで哀悼の意を表する。

業 務 概 況

◎ 1月の入場者数

区 分	水族館 発券数		明光バス発券数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	7045	68370	18381	150999	25426	219369
小 人	648	6113	651	5046	1299	11159
団 体	8590	129829	—	—	8590	129829
合 計	16283	204312	19032	156045	35315	360357
無料入場者					—	1209

団 体 : 一般 96組, 学生 1組 計 97組

◎ 1月の事業収入

(今年度累計)

観覧券売上金	665,424	6,510,390
予金積立金利子	—	446,169
雑 収 入	565	25,165
魚 類 拂 下	—	8,940
絵はがき拂 下	12,230	116,000
計	678,219	7,106,664

◎ 1月の支出

水族館経費

箇 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	72,085	953,007	
会 議 費	—	64,582	
備 品 費	3,300	89,820	電気ストーヴ
消 耗 費	16,201	154,587	
事 業 費	57,285	638,824	
維 持 費	7,800	104,707	
其 他諸経費	11,245	509,860	辻氏母堂逝去につき御香料
積 立 金	136,232	5,220,759	
合 計	304,148	7,736,146	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	—	120,000	
奨 学 金	8,000	8,000	
備 品 費	—	438,695	
消 耗 費	—	56,100	
刊 行 費	—	217,534	
役 務 費	—	—	
合 計	8,000	912,329	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	209,000	280,515	
備 品 費	—	51,020	
消 耗 費	—	24,645	
役 務 費	—	8,030	
合 計	209,000	364,210	

臨時費

摘 要	金 額	累 計	備 考
構内歩道改修	58,050		
合 計	58,050	1,198,610	

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	304,148	7,736,146
実験所経費	8,000	912,329
博物館経費	209,000	364,210
臨時費	58,050	1,198,610
計	391,098	10,211,295

◎ 1 月末現在高

前月からの繰越	496,078
今月の収入合計	678,219
今月の支出合計	391,098
現 在 高	783,199

◎ 前年度との比較

	1958	1959	増	減
入 場 者 数	30275	35315	+	5040
売 上 金	572,685	665,424	+	92,739
支 出 金	333,553	391,098	+	57,545

水 族 館 記 事

- ◎ アカウミガメの仔は5日, 9日, 12日, 18日と相次いで死亡し遂に全 滅した。
今冬の近來稀な寒波が水族館内の動物にも影響したものと思われる。
- ◎ ベニイザリウオも5日, 12日に1匹ずつ死亡し, 全滅した。
- ◎ 9日ツバメウオ1匹死亡。
- ◎ 9日エビスタイ1匹入槽。
- ◎ 13日 瀬戸崎西方5～6マイル, 120～130 mの深さの所で釣り上げた巨大な
マアナゴ2匹が入槽。 全長165cm, 最大周長45cm及び全長130cm
最大体周長32cmであった。 現在なお元気である。
- ◎ 16日 カフトカニの♀1匹死亡。
- ◎ 22日 ツチホゼリ1匹入槽(28日死亡)。
- ◎ 24日 昨年10月頃入槽し, NO. 25水槽の給水管の中にかくれたまま姿を隠
せなかったメクラアナゴに似た魚が13日入槽したマアナゴにより追い出され
て, 暫く怪異な姿を現わしたが, 遂に死亡した。 全長210cm 最大体周長
25cmを測った。

- ◎ 28日エビスタイ1匹入槽し、他の1匹が死亡した。
- ◎ 1月30日現在の観覧水槽で飼育中の動物は総計120種、780余個体による。
その内記は下記の通り。

海綿類	2種、	海トサカ類	1種、	ヤギ類	1種、
海鰓類	1種、	砗巾着類	5種、	石サンゴ類	6種、
花巾着類	1種、	剣尾類	1種、	エビ類	8種、
ヤドカリ類	3種、	カニ類	11種、	アメフラシ類	2種、
ニ枚貝類	2種、	巻貝類	10種、	イカ類	1種、
海シタ類	1種、	ヒトデ類	2種、	ウニ類	5種、
ナマコ類	2種、	軟骨魚類	6種、	硬骨魚類	48種、
カメ類	3種、				

- ◎ 北陸館よりこのほど刊行された「原色動物大図鑑」第2巻（富山阿部晴岡博士執筆）の寄贈をうけた。

博 物 館 記 事

- ◎ 南部町のアマチュア動物愛好家尾崎光之助氏より1月20日下記の珍しい標本2点が寄贈された。

1. Peloropsis xenops Gilbert ボロカサゴ （浦原博士命名）

産地：南部町界沖（エビアミ） 1点

採集月日：昭和34年1月17日

本種は戦前田辺芳より採れたこともあつて、現在その標本が当博物館に保存されている。原産地はハワイ諸島であるが、これが日本では第2番目の標本となる。赤色地に蛇の目模様の斑紋が散布し、その上肉質の皮褶が沢山体をおおい、あたかもボロに包まれたような感じのする美しいカサゴの一種。

2. Salmacis sphaeroides (Linné) ニシキウニ (内海新種)

産地：印南町切目崎（エビアミ） 1 尾

採集月日：昭和34年1月17日

本種は本邦の内湾に多いサンショウウニに近い種であるが、日本では未記録の美しい熱帯系のウニ。 標本は直径3.5Cm。 殻を包む外皮は赤褐色、棘は短小で扁平、オリーブ地に赤色の縞がある。 かつて加太より坂口從一郎氏が別の名前で記録されているウニがこれによく似ている。 エビアミにかかるようでは紀州ではそう珍しいものではないかも知れないが、従来人の目につかなかった。

資 料

◎ 1月の気象 (9時観測)

南水槽室 (水温比重はNO. 25水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(16)	6	5	5
室 温(°C)	$\frac{14.3 \sim 6.5}{9.9}$	$\frac{9.6 \sim 5.0}{7.0}$	$\frac{15.6 \sim 7.0}{11.4}$
水 温(°C)	$\frac{17.45 \sim 13.65}{15.21}$	$\frac{15.46 \sim 11.86}{13.57}$	$\frac{16.61 \sim 12.25}{14.65}$
比 重(0.5)	$\frac{25.72 \sim 25.37}{25.57}$	$\frac{25.83 \sim 25.51}{25.75}$	$\frac{25.86 \sim 25.18}{25.55}$

取入口

水 温(°C)	$\frac{17.67 \sim 14.20}{15.65}$	$\frac{16.12 \sim 12.25}{14.46}$	$\frac{18.30 \sim 12.49}{15.44}$
比 重(0.5)	$\frac{25.79 \sim 25.58}{25.57}$	$\frac{25.92 \sim 25.37}{25.75}$	$\frac{25.86 \sim 25.14}{25.63}$

◎ 観覧水槽中の酸素測定結果 (1月12日原田研究室測定)

水槽番号	採水深度	溶存酸素量 ($\frac{cc}{l}$ at 5°C, 1 atm.)	酸素飽和度 (%)
N.O. 1	表面	4.79	80.64
N.O. 15	“	4.29	72.22
N.O. 25	底 部	3.34	56.42
N.O. 37	表面	4.35	73.23
“	給水孔附近	4.45	74.92
“	底 部	4.06	68.01
N.O. 38	“	2.94	49.25
海水取入口附近	表面	5.41	95.16

来 訪 録

1月17日 北隆館谷口喜雄・中坂幸藏氏来館。(原色動物大図鑑第3巻の編集について)

1月17日 NHK記者4名(25日午前7時45分より放送の「自然と共に」「冬の南紀州の海」の取材と収録のため)

昭和34年2月5日 (N.O. 77)

編集兼
発行者

内 海 富 士 夫

発行所

瀬戸内海実業振興会
和可山温泉白浜町
瀬戸内海実業所内
(Tel. 白浜温泉 515)